

# 織部遺跡



現地にこの様な、説明案内が設置されました。

古墳は、明治45年(1912年)、瓦の原料にするために土採りを行っていた際に発見された。この古墳は、直径約30m、高さ3mの円墳で、石室などを造らず、木棺か粘土で覆うかしたものであったと考えられている。出土した遺物は、三角縁四神四獣鏡(下の写真)、

鉄斧、鉄剣などで、発見者の片山幸太郎氏から東京国立博物館に寄贈されている。

さて、副葬品の内、特に注目されるのは三角縁四神四獣鏡の銘文が、日本古代の謎とされる弥馬台国と関係が深いことにある。



(直径 23.1cm)

中国の歴史書である『三国志』の『魏書東夷伝』の倭人の条に弥生時代の終ころの日本のことが記されている。それによると当時、弥馬台国の女王卑弥呼が中国から銅鏡 100 枚などをもらっており、国々のものにそれらを分け与えるよう指示されている。この銅鏡 100 枚のうち一枚がここ織部古墳から出土したものではないかとも考えられるのである。

ただ、この鏡が、肝心の中国から一枚も出土していないことから日本製であると考えられる意見もある。